

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスDIVE		
○保護者評価実施期間	2025年 2月 15日		2025年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2025年 2月 15日		2025年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育を中心とした支援を展開しており、個別運動と集団活動をバランスよく取り入れることで、身体機能の向上だけでなく、コミュニケーション能力や社会性の発達を総合的に支援できている。	個々の発達段階や特性に応じた運動プログラムを設定し、無理なく楽しみながら取り組めるよう個別支援と集団活動に取り組んでいる。	スタッフの専門性向上を目的とした研修や事例検討を継続的に実施し、支援の質のさらなる向上を図ってきたい。
2	専門性を有するスタッフが多数在籍し、安全面に十分配慮した人員配置を行っているため、安心・安全な環境の中で質の高い療育を提供できている。	ルールのある集団活動を意図的に取り入れ、順番を守る、協力する、気持ちをコントロールするなど、社会性の発達につながる経験を積めるように支援している。	保護者との連携をより強化し、家庭での様子や課題を共有することで、より一貫性のある支援体制の構築を進めていきたい。
3	日々の活動の様子をSNS等で積極的に発信することで、保護者や地域に対して透明性の高い運営を行い、事業所の取り組みや子どもたちの成長を可視化できている。	地域行事への参加や自社イベントの開催を通じて、事業所以外の環境での経験機会を確保し、地域とのつながりや社会参加の意識を育む取り組みを行っている。	活動内容や支援の意図をより分かりやすく発信し、保護者や地域に対する理解促進と信頼関係の強化を図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動療育に強みがある一方で、学習面や認知面に特化した支援については、必要に応じてさらに充実させていく必要があるのではないかと考えられる。	運動療育を主軸としているため、他領域(学習支援や認知発達支援)に対する専門的アプローチの機会が相対的に少なくなっていることが考えられる。	必要に応じた学習支援や認知面へのアプローチを強化するため、教材の導入や専門的知識を有するスタッフの育成・配置を検討していく。
2	利用児童の増加に伴い、場面によって個別対応の時間や関わりの質にばらつきが生じる可能性があり、支援の均質化が課題となる場面が見られることがある。	安全面を重視した人員配置を行っているものの、利用人数やニーズの多様化により、個別支援に割ける時間の確保が難しくなる場面が見られるのではないかと考えられる。	支援の質を均一化するために、支援マニュアルの整備やスタッフ間の情報共有の強化、ケース会議の充実を図り、チームとしての支援力向上を目指す。
3	SNS発信においては積極的に行っているものの、情報の受け取り方には個人差があり、すべての保護者に十分伝わっていない可能性が考えられる。	情報発信の手段が主にSNSに偏っているため、閲覧頻度や関心の違いによって情報共有に差が生じていることが要因として考えられる。	SNSに加え、保護者会等を活用した多角的な情報共有の仕組みを整え、多くの保護者に対して情報が届くように工夫していく。